



町頭 達也 さん (31)

まく ひと しごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.9

立神海の風こども園 / 中央町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。今月は、立神海の風こども園の保育教諭取材しました。



現在、本市においても男性の保育教諭として活躍する方が多数います。立神海の風こども園に勤務する町頭達也さんもその一人です。

枕崎出身の町頭さんは、子どもの笑顔を見るのが好きで、いつか自分が子どもの笑顔を引き出せる保育教諭になりたいと思います。中学生の時に保育教諭を目指しました。その当時は男性の保育教諭の数は少なく、周囲から反対されることもあったそうですが、実際に男性保育教諭として立派に仕事をしている知り合いの方の姿を見て、自分もこうなりたくて保育教諭になる決意を固めました。高校を卒業後、福岡の短期大学で2年間、保育教諭になるための勉強をしました。体を動かすことが好きだった

た町頭さんは、子どものバランスやけがをしにくい体づくりなどを学ぶスポーツ保育の分野を専攻しました。短大を卒業後は福岡の保育園に3年間勤務しますが、いつかは枕崎に帰ってきて地元の子どもの面倒をみたいという思いがあったため、8年前に枕崎に帰ってきて立神海の風こども園に就職し、現在に至ります。

短大に行くまではピアノも弾いたことがなかったと話す町頭さんですが、コツコツと努力を重ね、保育教諭として働き始めて約10年経った今、やっと一人前に弾けるようになったそうです。

現在、2歳児の担当をしている町頭さん。子どもたちと外に出るのびのびと季節を感じたり、散歩に行ったり、体操や歌を歌ったりして、充実した毎日を過ごしています。体力を使う仕事なので疲れることもありませんが、子どもたちの笑顔と「おはよう」のあいさつで、その疲れも吹き飛ばすと話します。

「子どもの笑顔と成長が一番近いところで見ることができるところがこの仕事の一番の魅力。やりがいのある仕事です」と話す町頭さん。これからも初心を忘れず、子どもたちの笑顔を引き出せるように元気ハツラツと過ごしていきたいと微笑みます。



今月の担当は りっか隊員です!



こんにちは、篠塚立夏です。鬼滅旋風がすごいですね。軽い気持ちで漫画を読んでみたら、思いきりハマってしまいました。主人公たちだけでなく敵の「人間味」が丁寧に描かれているところが愛される理由だと思います。

地域おこし協力隊 活動レポート

協力隊 が行く!

かつお節がつなく縁に感謝

9月と10月に実に半年以上ぶりのリアルなイベントに参加してきました。どちらも「枕崎のかつお節」その場で削って提供してほしいとお声がけをいただき、二つ返事で引き受けたものです。コロナ禍で新しい出会いも見知った人との再会も少なくなっていた中、昨年お世話になった方々からいただいた縁でした。こんな時だからこそ、つながりを大切にしたいかなければと改めて思います。

イベントではかつお節や枕崎についてお話をしたり、かつお節を削ってフレッシュな香りとお味をお楽しみしてもらったり、お客さん自身に削ってみてもらったり。特別にお子さんに大好評!見たこともない丸ままのかつお節の姿に驚き、想像以上の硬さに苦戦しながらも「オカ力」で競うように削っていました。

オンライン飲み会、帰省が流行りもしましたが、やはり対面でのコミュニケーションが一番。削りたてならではの香りを共有できるのはもちろん、目の前で幸せそうにかつお節を頬張り「美味しー」と言ってもらえる喜びは、ほかの何にも変えられません。変容していく生活様式に都度適応しながら、これからもこのような活動を続けていきたいと思えます。

早いもので、地域おこし協力隊

協力隊任期の折り返し地点

としての活動任期が半分を切りました。12月時点で残り16カ月。枕崎にどれだけのことを還元できるかが試される期間でもあります。が、社会という大海原に放り出されるまでのカウントダウンでもありません。正直、不安は尽きません。就職するのか、独立するのか。任期後の自分にどんなスキルがあり、果たしてそれは社会に通用するのか。地域おこし協力隊の仕事は自由度が高く、楽しくて心地のよいことがほとんどですが、限られた期間と環境の中で何を施してきたかが卒業後の生活を大きく左右します。自分で自分にかける重圧に押しつぶされそうになる日も、あったりなかったり。

迫りくる将来を見据えるため、自身と向き合う時間をつくるように心がけています。少し「地域おこし」から意識を切り離して、本当にやりたいことを見つめ直すタイミングが来ているのかもしれない。文章を書くことが好きなので、最近はライターとして旅レポートを書くお手伝いをしたり、未知の領域だったエッセイ、広告コピーのコンテストに挑戦してみたりしています。短歌にも興味が出てきました。こういった分野で枕崎でもお役に立ちたいと考えているので、お手伝いできそうなことがありましたら気軽に声をかけてください。

市長

コラム

vol. 21



仕事について

こんにちは、前田祝成です。

12月になりました。今年、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、これまでに経験したことのない1年を過ごすこととなりました。本市では2月に「枕崎市新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、さまざまな対策に取り組みしてまいりました。また収束の見えない状況が続きますが、この感染症との共存、新しい生活様式の中で、これからも私たちは暮らしていくこととなります。

さて、今年を振り返るといって、このコラムで1月に何を書いたらだろうと振り返りますと、仕事についての自身の思いを書いておりました。「市長の仕事は未来をつくる仕事と書いています。では今年の仕事はどうだったかと、反省するところです。コロナが発生して、なかなか将来を見通しにくい状況の中で、どれだけ未来を描いて、そのための仕事ができたと考えられると、厳しい自己評価をしなければならぬと思います。今年は第二期枕崎市地方創生総合戦略の5カ年のスタートの年です。まさに、枕崎の未来を描くスタートの年。エネルギーを含めた地産地消の推進、関係人口の増加に向けた野球によるまちづくりなど、なかなか思うようなスタートが切なかったのが現状です。しかしながら、来年以降、それらの施策を加速させるための準備、組織機構の見直しなど、少しずつ歩みを進めている部分もあります。

「市長の仕事は未来をつくる仕事、そして市民を助ける仕事」。もう一つの「助ける」部分については、今年ほど「助ける」重要性が求められた年はないかもしれません。コロナの影響で、地域経済が大きなダメージを受けました。行政として取り組める施策を可能な限り行いました。まだまだ足りていない部分もあるかと思いますが、この点については全ての職員で考え、取り組みました。収束の見えない状況は続きますが、今年の残り、そして来年、「未来をつくる仕事、市民を助ける仕事」に邁進してまいります。

今年も1年間、ありがとうございました。

スズキコージの大魔法画展

奇想天外な発想、ダイナミックな描写、強烈な極彩色による生命力みなぎる作品を描き続ける絵本作家スズキコージ。本展では『ドームがたり』、『そもそもオリンピック』(ともに文 アーサー・ピナード)から、『エンソくんきしゃにのる』など代表作の絵本原画や、「ライブ・ペイント」から生まれた巨大キャンバス絵、遊び心あふれる立体作品を加え、スズキコージの芸術が一堂に会します。「人間ではない何かの生きものの気配を感じることがある。」(『大千世界のなかまたち』より本文抜粋)という言葉の通り、普通の毎日のはずなのに、気

がつくといつもとちがう世界が見えるコージズキンの魔法画の世界をご覧ください。

- 会期 12月13日(日)～2月14日(日)
- 会場 南浜館
- 観覧料 無料

会期中のイベント

アーサー・ピナード(詩人) 読み聞かせ

- 日時 1月9日(土)・11日(月) 午後1時30分～
- 会場 南浜館
- 観覧料 無料
- 定員 30名(当日受付)

ライブペイント+トークショー
共作の絵本「ドームがたり」

について、製作過程などスズキコージとアーサー・ピナード(詩人)が語ります。

- 日時 1月10日(日) 午後1時～3時
- 会場 南浜館
- 観覧料 無料
- 定員 50名
- 申込方法 往復はがきに住所・氏名・電話番号・イベント名を明記のうえ、南浜館へ。はがき1枚につき1名の申し込み。12月22日(火)必着。申込多数の場合は抽選。

年末年始の休館について

12月28日(月)から1月4日(月)まで南浜館は年末年始の休館です。

南浜館 イベント情報

- 開 9:00～17:00
※入館は16:30まで
- 休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日
- 問 TEL72-9998